



PRESS RELEASE

2009年1月7日
インターネットマルチフィード株式会社

大規模サーバと複雑なコンテンツの IPv6 対応化実証実験開始について

インターネットマルチフィード株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鈴木幸一、以下 MF）は、2009年1月7日より、大規模サーバと複雑なコンテンツを次世代インターネットの基盤技術の1つである IPv6 に対応させるための実証実験を開始します。

実証実験を実施するにあたって、株式会社日本経済新聞社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：喜多恒雄、以下 日経）、株式会社日本経済新聞デジタルメディア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋雄一、以下 日経デジタルメディア）、株式会社日経統合システム（本社：東京都江東区、代表取締役社長：真田幹男、以下 NAS）と共同で実験に取り組み、日経、日経デジタルメディア、NAS が提供する複雑な Web コンテンツを利用しながら、大規模サーバとデータセンターネットワークの IPv6 対応指針と、IPv6 技術に対応したコンテンツ構築指針を明確にしていまいります。

1. 実験の目的

現在のインターネットで利用されている IP アドレス（IPv4）は、早ければ 2011 年にも在庫が枯渇し、新規に IP アドレスを取得する事が困難になると言われております。このままでは新規にインターネットにサーバ等の機器を接続して自らのサービスを拡大することが困難になるため、IPv6 アドレスを用いた新インターネットに早期に対応する事が全てのプレーヤーに対して求められています。

現状、新インターネット（IPv6）に対応したネットワークの構築技術や運用技術については、議論は比較的進んできています。しかし、大規模なサービスを行っている WWW サイトにおいては、現状のサービスに影響を与えずに既存のサイトを新インターネット（IPv6）にも対応していくためのノウハウは、個別のサイト毎に環境や仕組みが大きく異なるため、あまり議論されてきておりませんでした。

そこで、今回、複雑に連動して動作する大規模な WWW サイトを IPv6 に対応させていく際のコンテンツ提供者やデータセンター事業者の課題を明確にし、コンテンツ提供者の IPv6 対応サイト構築指針と、データセンターの IPv6 サービス提供指針を作成することを目的として、実証実験を行います。

2. 実験の内容

(1) 実験システムの構成

日経、日経デジタルメディア、NAS が保有する既存の WWW サイトに IPv6 インターネット側よりアクセスするため、IPv4 インターネット環境及び IPv6 インターネット環境を保有する MF のデータセンター拠点内に「IPv4/IPv6 変換サーバ」を設置し、IPv6 によるアクセスを IPv4 からのアクセスであるかのように変換する環境を構築します。

(2) 検証内容

本実験システムを用いて次の内容についての検証を行います。

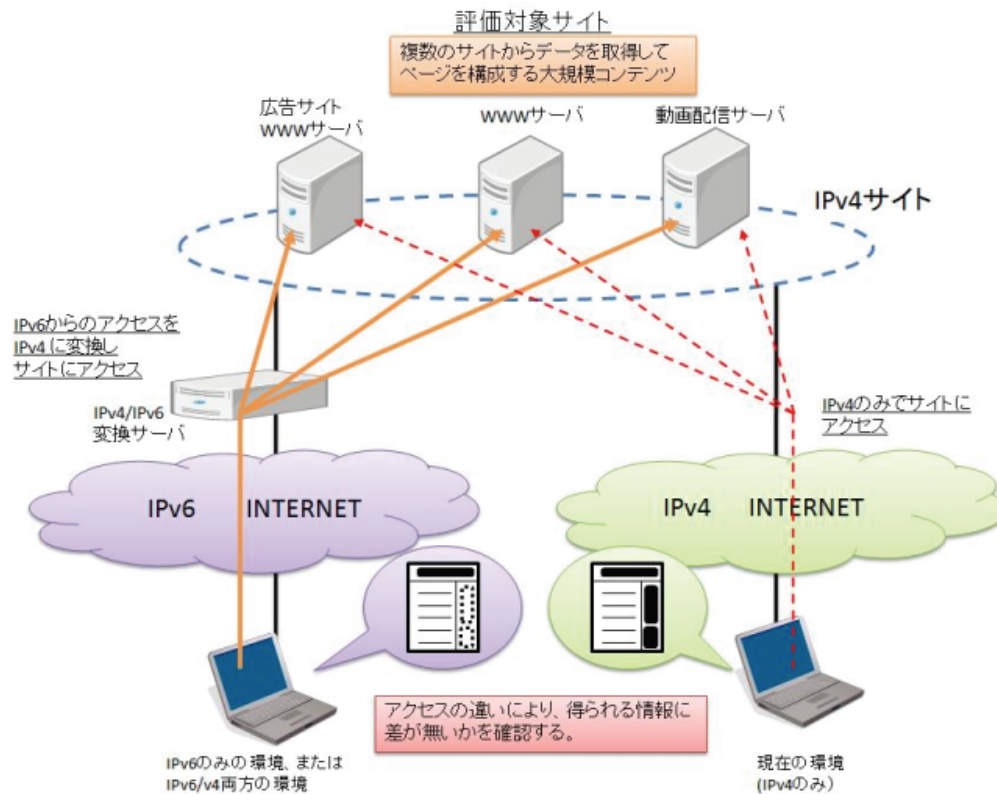
- IPv4 インターネットからのアクセスと同等のサービスが実現できているか
- IPv6 インターネットからアクセスした場合に取得できるユーザ情報の評価
- IPv6 コネクティビティサービスを提供する際に必要な機器及び機能

この検証結果を元に、コンテンツ作成時における IPv6 対応への指針、データセンターにおける

IPv6 サービス提供の指針を明確化します。

- (3) スケジュール
2009年1月7日 ～ 2009年9月末まで（予定）

[実験構成イメージ図]



[本件に関するお問合せ先]

インターネットマルチフィード株式会社
広報担当
Tel: 03-3282-1010
Fax: 03-3282-1020
E-mail: info@mfeed.co.jp
URL: <http://www.mfeed.co.jp>